

## 小型ポット利用によるいちごの定植前マルチング

【要約】 いちごの本舗における定植前マルチングは、定植後の生育が旺盛で早期収量及び総収量が多くなる、慣行の定植後マルチングに比べて、労働時間が大幅に軽減され、作業時における苗の茎葉の損傷もなくなる。

園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果菜類	分類	普及

### 【背景・ねらい】

従来、いちご本舗のマルチングは定植約1カ月後くらいの生育の旺盛な時期に行っており、慎重な作業を強いられるため、労働時間の多さはもとより生育への悪影響も問題となっている。マルチング作業時間の大幅な軽減を図るために、定植時の植え穴が小さな小型ポットを利用した定植前のマルチングが、定植後の収量に及ぼす影響を明らかにする。

### 【成果の内容・特徴】

- ①普通促成栽培において、定植前マルチング(定植直前)は慣行マルチング(定植後1カ月)に比べて2月までの収量は同等で、総収量は多くなる
- ②低温処理による促成栽培において、定植前マルチングは慣行マルチングに比べて年内収量が多く、後期(3、4月)収量も多くなる。
- ③定植前マルチングは、低温処理による促成栽培では腋果房の開花時期が遅くなり、中期収量が少なくなる。
- ④マルチングに関わる10a当たりの労働時間は、慣行の56時間が8時間(試算)へと大幅に少なくなる。

### 【成果の活用面・留意点】

- ①いちご棚式育苗システムの栽培基準作成の資料として活用する。
- ②低温処理による促成栽培では中期収量が少なくなるので、作型の組み合わせによる安定生産を図る。
- ③定植後活着までは、頭上散水により植え穴からのかん水を重点に行う。

[具体的データ]

(t/10a)

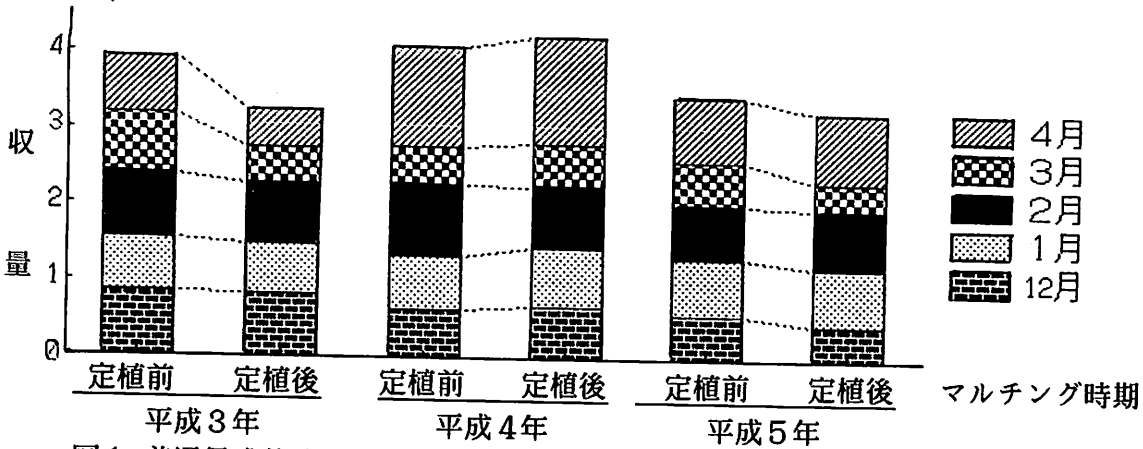


図1 普通促成栽培の月別収量

(t/10a)

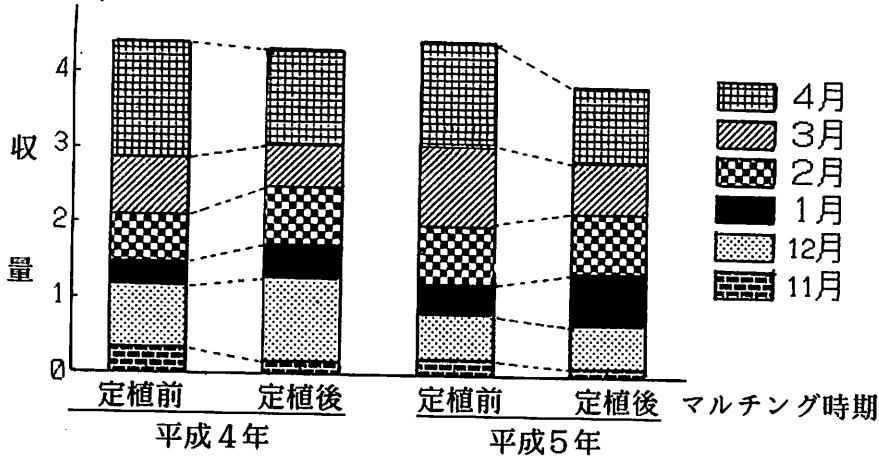


図2 夏期低温処理による促成栽培の月別収量

表1 供試したマルチングの資材及び時期

資材の種類	黒色ポリフィルム
マルチング時期	定植前：定植直前 定植後(慣行)：定植1カ月後

表2 頂果房及び腋果房の開花状況

年度	作型	マルチング時期	頂果房		腋果房
			平均開花日 月・日	開花揃い株率 %	年内開花株率 %
4	普通	定植前	11・9	84	21
		定植後(慣行)	11・7	95	40
	低温処理	定植前	10・23	88	74
		定植後(慣行)	10・23	100	100
5	普通	定植前	11・6	100	91
		定植後(慣行)	11・6	97	86
	低温処理	定植前	10・24	100	91
		定植後(慣行)	10・27	100	100

注) 開花揃い株率：最初の株が開花してから3週間以内に開花した株の割合

[その他]

研究課題名：イチゴ超省力生産システムの開発

予算区分：経常

研究期間：平成5年度(平成4～7年)

研究担当者：伏原 肇、林 三徳、柴戸靖志

発表論文等：平成4～5年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書